

## 「ピアノが教えてくれたこと」

北海道札幌視覚支援学校 小学部 六年

加須屋 心

私はピアノを弾くことが好きです。弾いていると気持ちがあつきます。毎日練習しています。しかし、始めた頃は、弾いていても楽しいと思えなくて、好きではありませんでした。

私は五歳でピアノを始めました。はじめは、ドやレなどの場所を教えてもらい、少し弾けるようになりました。一年生で今のピアノ教室に入りました。ピアノ教室では、友達もできたけれど、ピアノを弾くことをまだ楽しめませんでした。それから、二年生でペダルを踏む練習をしました。ペダルを踏むととてもきれいな音がなつて驚きました。三年生から自分が好きな曲を弾けるようになりました。このときからきつとピアノを楽しいと思いはじめたのだと思います。

五年生の後半辺りから学校の校歌を練習し始めました。校歌は少しずつ覚えて弾けるようになりました。途中、難しくて気持ちが落ち込んだこともありましたが、ある日、お父さんが

「お父さんの夢は、心が校歌の伴奏を弾くことだよ。」

と、言ったので、叶えられるといいなと思って、がんばって練習をしました。校歌を弾けるようになってからピアノがもっと楽しくなりました。

ある日、先生に終業式の校歌の伴奏を提案されました。はじめは

「間違えたらどうしよう」と思って、少し迷いました。今まで、お姉ちゃんが学校で、合唱の伴奏をやるときに、家ですごく練習しているのを何度も聞いていたので、「楽しいのかな」と思っていました。そして、お母さんに伴奏のことを相談すると、

「楽しくなるかもしれないから心もやってみたら？」

と、言われました。だから、私もがんばって挑戦してみようと思えました。

終業式の日、朝から緊張していました。でも、弾き始めると緊張が溶けて、楽しくなってきました。上手に弾けてほっとしました。

今まで私は難しい曲を弾けないことが続くと、諦めてちがう曲を弾くことがありました。でも今回は諦めずに弾けたことがとてもうれしかったです。

私は今までお姉ちゃんほどレベルをあげていくのにどうして私はレベルを上げられないんだろうと思っていました。でもそれは、私がすぐにあきらめてしまうくせのせいだということを知りました。諦めないでがんばれば、できるようになるということがわかりました。私はこのことをピアノが教えてくれたことだと思っています。これからは、あきらめずにいろいろな曲を弾いてレベルを上げていきたいと思っています。

## 「私と散歩」

北海道札幌視覚支援学校 中学部 三年

斉藤 雄聖

皆さんは散歩をしますか？私は休日の暇な時間によく散歩をします。散歩をすると外の空気を感じられて気持ちいいし、嫌なことがあった時の気分転換にもなります。特に、まだ知らない道を散歩することが大好きです。未知の場所に行くときのドキドキ感や、新しい景色を見たときの感動が私にはたまりません。

私の視力は裸眼で両目〇・一、眼鏡をかけると〇・三ほどです。そんな散歩ですが、気持ち良い反面、不自由なこともたくさんあります。まず、歩道の広さが問題です。しつかり整備されている道は広くて歩きやすいですが、整備されていない道は歩道が極端に狭かったり、石や砂で地面がボコボコになっていたりして、とても歩みにくいです。冬になると雪が降り、さらに歩みにくくなります。

次に、外の眩しさがあります。私の場合、太陽が出ている昼間は眩しくて前が見えず、日焼けもしてしまいます。そのため、いつも遮光眼鏡をかけて日焼け止めを塗っています。遮光眼鏡をしても見えない時があるため、不便です。その他にも、信号機のない車道、歩道か車道かが分からない道、色が同じ階段、人通りの多い道、凸凹があつて坂になつている道など、さまざまな不便があります。

これらの不便を避けるために、昼間ではなく、信号機のある整備

された道を歩くこととなります。そうすると、散歩できる場所がかなり限られてしまい、私が楽しむ散歩とは程遠いものになります。

それでも、私はリスクを承知で散歩を楽しんでいます。多少の危険がある方が散歩として面白いと感じるからです。しかし、全盲の方はどうやって散歩を楽しんでいるのかと考えることがあります。私のような弱視の人や視力の良い人は多少整備されていない道でも歩けますが、全盲の方はそうはいきません。音を頼りに慎重に歩かなければならず、散歩自体が非常に困難です。これは視覚障害者だけでなく、体に障害のある全ての人に当てはまります。

散歩は、気晴らしや健康のためにぶらぶら歩くことで何気ない日常的な行動と思われがちですが、視覚障害者にとってはストレスの絶えずかかる危険を伴う移動です。

私は当事者の一人として、障害者にも配慮した誰もが散歩を楽しめる社会になってほしいと願っています。そのためには、地方自治体の整備を促し、道路をはじめとする生活環境を改善すること、一人一人が障害者の立場を理解し配慮すること、そして障害者自身も工夫して散歩の方法を考えることが大切なのです。

## 「みんなとたのしんだうんどうかい」

北海道旭川盲学校 中学部 二年

大城 幸太郎

ぼくは、うんどうかいのかいかいしきで、ふくかいちようのあいさつをしました。まいにち、あいさつのれんしゆうをがんばりました。ジングスカンのうたを大きなこえでうたいました。

きろくそうでは、みんながおうえんしてくれたので、たのしく、はやくはれました。

一ばんたのしかったのは「めざせ！オリンピック」です。やきゅうではバットをボールにうまくあてることができました。バスケットもボールをいれることができました。ストラックアウトとサッカーははいりませんでした。

たまいは、パパと妹といっしょにたくさんたまをいれました。ぜんこうダンスでは、ママと妹といっしょにおどりました。「はい、ポーズ！カシヤツ！」としゅうごうしゃしんをとれてうれしかったです。

パパとママと妹とおばあちゃんがほめてくれました。そつぎようせいにあえて、うれしかったです。

## 「夢への約束」

北海道高等聾学校 三年

鈴木 心花

尊敬している先生からの一言で、私は今までの努力が認められたのだと思えました。

私には聴覚障害があります。高校一年生の春、母の影響もあり、将来は保育士になってみたいと初めは思っていました。そこで保育士の資格が取れる専門学校のオープンキャンパスに参加し、面談をしました。すると、私には聴覚障害があるため「保育士になるのは難しい」と言われ、「母のような先生になることができないんだ。」と残念に思いました。私はよく母の職場である福祉デイサービスに手伝いに行っていました。その際に、こどもと話したりする中で聞き取ることができない時が何度かありました。そのため保育士は難しいと自分でも判断しました。

保育士の夢を諦めたとき、中学生の時によく母と一緒に料理をしていたのを思い出しました。私はいろいろな人に誕生日ケーキを作ったり、相手の好きなものを作ったりなど、相手の笑顔を見ることがとても大好きでした。そこで、調理師になればいろいろな人の笑顔を見られるのではないかと思い、キッチンカーで働きたいという新しい夢ができました。そして、調理師専門学校のオープンキャンパスに行くことを決めました。そこで私はまた前と同じように「難しい」と言われるのではないかと不安な気持ちがありました。が、それよりも「調理師になる！」という強い思いがありました。オープンキャンパス当日、調理体験をしている中で先輩方が優しく、とても話しやすいと感じました。面談の時には「耳が聞こえにくい

「努力してきた結果が出たんだよ。頑張ったね。」

のなら周りに聞けば良い。調理は協力が重要だからね。」と言ってくれました。その言葉を聞き、「絶対にこの学校に入り調理師になる！」と強く決意しました。

高校三年生の春、特待生試験を受けることにしました。母は私にあまり期待しておらず、「経験として受けなさい」と言いました。私は悔しくて毎日学校に残り勉強しました。

ある日、いつもどおり放課後に勉強している時に、同じ学年の先生が来ました。先生は「勉強頑張っているね。すごいじゃん！作る物全部おいしそう。」と言ってくれました。私は母に言われたことが悔しくて勉強していることを話すと「絶対合格できる。でも無理はしないでね。心花の料理を一番に食べたい。楽しみだ！」と言ってくれました。先生に料理を振る舞う約束をし、この時から先生は私にとって尊敬する先生となりました。先生からの「料理楽しみにしているよ」という言葉が一番心に刺さり、今まで以上にもっと頑張ろうという思いと、母に認めてもらいたいという思いがさらに強くなりました。

十月に入り、特待生試験の実技の内容と小論文のテーマを知りました。それから何度も練習しコツをつかめるぐらいまでいくことができました。私が本調子でない時には「大丈夫？」や「すごいね！」と尊敬する先生がいつも前向きになれる声かけをしてくれました。その声かけや担任の先生からの「無理しないでね。お疲れさま。」という声かけもあり、私は「応援してくれる人がいる。絶対に合格し

て皆に料理を振る舞いたい。」と強く思いました。

その後も毎日勉強を行い、試験前日には、たくさんの方が「絶対大丈夫」「楽しんで受けといて」と声をかけてくれました。試験当日は緊張していましたが、皆から言われたことを思い出し、やれること全てを發揮しました。

試験が終わり、一週間ほどで合格通知が来ました。通知を見ると無事特待生で合格したことが書かれていました。いろいろな人から「おめでとう！」と言われ、尊敬する先生からも「努力してきた結果が出たんだよ。頑張ったね。」と嬉しい言葉ももらいました。母も同じく「おめでとう」と言ってくれました。

私は尊敬する先生からの「おめでとう」の言葉が一番嬉しかったです。この困難を乗り越え、夢をつかんだことで自分に自信をつけることができました。

尊敬する先生に料理を振る舞う約束は忘れません。

今後も今より成長するために、苦手なコミュニケーションや臨機応変に動けるよう努力を続けていきます。

## 「努力した学習発表会」

北海道札幌聾学校 小学部 五年

堅田 柚衣

十月二十六日土曜日に学習発表会がありました。少しきんちようしましたが、セリフや動きを、ほとんどまちがえずに発表できてうれしかったです。

印象に残ったのは、話し合いと練習です。

話し合いではまず、テーマを決めました。テーマは「戦争」に決まりました。みんなに伝えたいことは何か三人で考えました。他には、「この時の表情は笑顔でいいね。」「このあいさは、これがいいんじゃない。」など、セリフや動き、アドリブなど細かい所まで三人で相談して決めました。セリフの内容は、どうしたらいいのか考えるのがむずかしかったけれど、HくんやTくんも協力して考えました。「ここは変えなくていいね。」「ここはこうしたらいいんじゃない。」など相談した結果、いい内容になり、よかったと思いました。

練習では、短い期間でセリフを覚えるということが苦しかったです。セリフを覚えるまでに時間がかかり、休み時間をも利用して練習しました。セリフの順番も、覚えるのに時間がかかりました。覚えていないうちは、混らんしてうまくできなかったけれど、少しずつ覚えることができました。お家でも練習したおかげで、セリフを覚えることができました。「たくさん練習したのがよかった。」と思いました。練習している時は、少しあせりがありました。しっかりと覚えられてうれしかったです。発表が終わったしゅん間、うれしさどほつとした気持ちになりました。お母さんは、「すばらしい！」と何度も言ってくれました。何度も言うので「しつこいな」と思

ましたが、うれしかったです。お父さんは「本番、きんちようしないで言えてすごい。」と言ってくれてうれしくなりました。

来年は二人になるけれど、セリフの内容や動きなど、今年と同じように、自分たちで話し合っ内容を考えています。内容を考えるのは、少し大変だったけれど、楽しかったです。来年は、今年よりレベルアップした発表にしたいと思っています。

### 総練習より上手かった学習発表会」

北海道札幌聾学校 中学部 一年

高柳 友里

学習発表会で特に気を付けたことは二つあります。一つ目は、役になりきることです。二つ目は、声を大きくして話すことです。理由は、観ている人たちに分かりやすく伝えようと思ったからです。その二つの目標を達成することができたと思います。

役になりきるために、台本に書かれていない台詞もアドリブで演じました。理由は、自然な演技をするためです。アドリブは、自分で考えていたので結構難しかったけれど、よかったかなと思います。

でも、台詞を覚えることと早着替えが大変でした。昔の亜麻工場のシーンで言った長い台詞です。また、昔の亜麻工場のシーンで始

まる前も終わった後も、作業服の早着替えをするのが大変でした。振り返ってみると、これまでに、学習発表会のために準備することがたくさんありました。あさぶ亜麻保存会の講演を聴いたり、六月頃に植えた亜麻とマリーゴールドと藍を育てたり、台本作りなどをやり、学習発表会を迎えました。私は、みんなと協力してここまできて、頑張ってやったなど実感しています。

今までは、総練習の方が上手いねとたくさん言われていたけれど、今回は、初めて本番の方が上手いと言われて、少しだけうれしかったです。頑張ってきたからこそ、本当に良かったなと思います。

来年の学習発表会は、何をやるのか分からないけれど、これまでの経験を活かしてもっと頑張ろうと思います。

本当に楽しく発表することができて、良かったです。

### 「学しゅうはっぴょうかい」

北海道函館聾学校 小学部 一年

沢田 葉海

十一月一日、学しゅうはっぴょうかいをしました。小学ぶで、「ブレーメンのおんがくたい」のげきをしました。わたしは、ねこをしました。

大きなこえで、せりふをいうのをがんばりました。

しゅわをおぼえるのがたいへんだったけど、いっぱいれんしゅうをして、おぼえられました。

げきのしようかいをビデオでとるとき、

「みなさんは、ブレーメンのおんがくたいをしていますか？」

と、げんきにいえました。

みんなでげきができて、とてもたのしかったです。

### 「いろいろな所に行って楽しかった夏休み」

北海道旭川聾学校 小学部 三年

松田 惟吹

ぼくの夏休みの思い出は、二つあります。

一つ目は、壮瞥の道の駅に行ったことです。旭川市から、千歳市を通って、壮瞥町の道の駅に行きました。その後に、お母さんたちに車中泊をするじゅんびをしてもらって、家族みんなでねました。次に、朝おきて数分たってから、パンを食べて、壮瞥の道の駅の中に入ってスタンプをおしました。楽しかったです。カントリーサインのマグネットも買えて、うれしかったです。

二つ目は、ライスランド深川と、田園の里雨竜と、石狩あいろーど厚田に行ったことです。三か所で、新カントリーサインと旧カントリーサインのマグネットと、キーホルダーと、ガチャンピンズラ

リーの小さい道の駅のかん板を買いました。カントリーサインのマグネットの金がかくは、二千円でした。キーホルダーの金がかくは、五百五十円でした。ガチャピンズラリーは、百円ぐらいしました。自分のお金で買ったので、うれしかったです。

来年は、もつとたくさんの場所に行きたいです。

## 「ゲームの良さについて」

北海道旭川聾学校 中学部 二年

A・S

僕はゲームが好きです。なぜ好きかというと、面白くて楽しく、盛り上がるからです。僕が好きなゲームは、「ポケモンGO」と「ポケットモンスターバイオレット」と「ポッ拳」などです。

しかし、親から「目が悪くなるから、やりすぎるのはダメ」と言われます。理由は他にもあり、ゲームに負けてイライラしてしまい、他の人を傷つけるような事をしてしまう可能性があることや、笑顔が減ってしまうことがあるとインターネットの記事には書いてありました。だから、僕はインターネットでゲームの良さについて調べてみました。その結果、ゲームをしてもいいと思いました。理由は、四つあります。

一つ目は、「目が良くなる」からです。一般的にはゲームをすると

目が悪くなると言われていますが、ある研究ではVRを使った事で視力が回復したという報告がありました。つまり、ゲームをしたからといって、必ずしも目が悪くなるとは言えないです。

二つ目は、「集中力と注意力を高められる」からです。ゲームをする時は、集中し注意しなければならぬため、集中力と注意力が高まります。さらに、ゲームをクリアすると、達成感や満足感を得られます。また、好奇心がかきたてられることも報告されています。

三つ目は、「日常生活が楽しくなる」からです。ゲームを楽しむことによって、現実でも心が晴れます。苦しい時もゲームでリフレッシュできるので、現実の生活でも楽しく過ごすことができます。

四つ目は、「脳が活性化する」からです。ゲームをしている間は、脳がよく働いている状態ということがわかりました。そのため、ゲームをすることで素早く判断する力が身に付きます。

僕はこれまで、後ろめたい気持ちながらもながらゲームをしていました。しかし、色々調べたら、ゲームをすることで目が良くなることや集中力と注意力が高められることなどの、良い影響があり、悪いことだけではないとわかりました。

僕はゲームをしている時、とても楽しいです。だから、今後は気軽にゲームを楽しみたいと思います。もちろん、勉強もしっかりやります。

「今、私は」

北海道帯広聾学校 小学部 六年

星 紅羽

私は、今、家族を大切にしている。私が家族を大切にしていきたいなと思っただけは、自分の悩みを解決してくれる家族の優しさが、身にしみただけだ。

私は聾学校の小学部を卒業したら、中学校に行くことになる。今までの聾学校での大切な友達と離れるのは、やっぱりさみしい気持ちがある。中学校に行くけれど、友達ができるか、勉強などいい点数がとれるかと不安だった。

でも、今は新しく始まる生活にわくわくしている。

そう思えるようになったのは、家族が進路に向けて励ましてくれたからだ。

「頑張ろう。」や「不安なことがあったらすぐに言ってね。」と言ってくれたおかげで、気持ちが増え、中学校に行きたい気持ちが増えた。そこで私は、同じ中学校に行くことになる友達がいる居住地校交流で、積極的に関わりをもとうと努力した。何度か通ううちに緊張がなくなり、たくさんの方がいる学級の間も楽しめるようになった。それは、家族が励ましてくれたからだ。

私の家族は、幸せがたくさん詰まっているいい家族だと思え

た。

将来、私はパソコンなどを使う仕事に就きたいと思っている。事務の仕事などをしていて人を見るとかっこいいなと思いつかこういう仕事に就いてみたいなと思ったのだ。そのために自分の意見をしっかりとめられるようにし、それを伝えられる人になりたい。

中学生になったら、友達をつくり、コミュニケーションを深めていきたい。そして、また何か悩んでしまうことがあったら、家族に支えてもらいながら、夢を叶えるために頑張っていきたいと思っている。

今、私は。お父さんとお母さんに感謝を伝え、今までしてくれた嬉しかったことをできる限り返したいと思う。そして、大人になっても家族を大切に、ずっと幸せに暮らしたい。

「私のやりたいこと」

北海道釧路鶴野支援学校 中学部 三年

坪井 依頼

大人になったらやりたいことは、いろんなところのいろんなお祭りに行きたい、今までお世話になった先生達と一緒に遊びたい、ご飯だけではなくデザートやお菓子を作ってみんなに食べてもら

## 「学校祭を振り返って」

北海道雨竜高等養護学校 二年

村上 総

いたいなどたくさんあります。また、将来の仕事は、図書館の仕事か、服（和服）を作る仕事かお菓子を作る仕事に就いて働きたいです。

「大人になったらやりたいこと」がちゃんとやれるように今できていることはありません。むしろ足りないことばかりです。足りていないものは、お金や人とのつながりの保ち方、お菓子などの作り方の知識や経験です。これらの「足りていないこと」を「できること」に変えるためには、お年玉をコツコツ貯めることや先生達ともっとお話すること、お菓子などのレシピの本を見て、時間があるときに実際に作って練習することだと思いました。

「仕事」に関しては、今知っていることは、図書館の人がどんな仕事をしているかだけです。中学二年生の職場体験で図書館の仕事について経験する機会がありました。それ以外の仕事は何も知りません。「知らないこと」を知るために仕事に関する本や服（和服）の作り方、構造の本などを読もうと思います。

これからは、やるべきことをコツコツやり、仕事については、高校に行つて勉強しながら、やりたい仕事を見つけていこうと思います。

去年と違って平日開催で、少し動き方が変わっていてやる事が多く、大変な学校祭だったと思いました。

しかし、学科販売を行うと、平日なのに、お客さんがたくさん来て、いっぱい農産科製品を買ってくれました。

お客さんからは「ネギが甘くておいしかった」、ネギが嫌いな子どもが「おいしい」、って言っていたなど、うれしい声もたくさん届いていました。

即売会を宣伝するため、CMで製品の良いところを、わかりやすく伝えるにはどうすればいいか、などみんなで話し合つて、協力してCMを作りました。

学年発表の器楽Gの演奏では何回も木琴練習を繰り返して本番に挑みました。本番ではノーミスで演奏できました。全体的に見ても満足いく結果になったと思いました。

後日祭では、実行委員会のプログラム係になって裏方でスローガンのポルター作りや後日祭の照明の係を担当していました。

担当の仕事が終わった後は後日祭の日程を楽しみました。

日程が一番盛り上がったのは個人的に新聞タワーだったと思います。

新聞タワーは一〜三年生で協力してどこまで高くの伸ばせるかを競う競技です。

農業科は強い足を作ってから無理をしないで、安定して伸ばす作戦でした。この作戦が上手くいって、農業科が一位を取ることが出来て、とても嬉しかったです。

来年は何の競技が来るか、わかりませんが来年も一位を取れるようにがんばりたいです。

### 「現場実習振り返り」

北海道札幌高等養護学校 窯業科 三年

U・S

私は、Kコンフェクト株式会社本社・工場で実習を行いました。私は、果物やケーキ、お菓子などの出荷や仕入れに使う番重の洗浄や仕分けをする作業を主にしていました。

他には、果物などの材料を切る時に使う足板の洗浄や道具を拭くのに使うダスターの回収などを行いました。

作業中は集中して動いていたので、体力や気分的な辛さは感じませんでした。昼休憩の時や退勤時などは一気に疲れがのしかかってくる感覚がしました。

実習中、全身が筋肉痛に襲われ、眉間に皺ができるくらい首が痛

くなりました。その時は、入浴中に体をほぐしたり、湿布を貼ったりして乗り切りました。

四週間の実習を終えた後は、あまり手応えを感じることができず、しつかりと仕事をこなせていたのか不安でした。もしも、雇ってもらうことができなかつたら、私は次にどうすればいいのかと考える内に、無気力な状態になって、学校生活や寄宿舎生活に身が入らない時がありました。今は気持ちを入れ替えるために、なんとか元の生活リズムを維持するように努力しています。

残り少ない学校生活を楽しまつつ、実習の評価に書かれていた口数が少ないという課題に取り組んでいきます。

### 「努力の大切さを知った部活動」

北海道札幌あいの里高等支援学校 三年

佐野 永稀

私は、中学校までは何も部活動をしていませんでした。高校に入ったら、頑張つて何かに打ち込んでみたいと思い、先生や親に相談して、楽しそうで雰囲気も良かった卓球部に入部しました。ですが、入部してみると、新入部員は自分と女子一名の二名しかいませんでした。しかも、もう一人の女子は一年生の冬には辞めてしまい、同じ学年の部員は自分だけになってしまいました。

少しさみしく感じることもありましたが、顧問の先生や先輩方が優しく丁寧に教えてくれたおかげで、楽しく部活動を行うことができました。

初めてラケットで玉を打った時は、なかなか思ったところに玉が飛ばず、とても難しいと感じました。それでもコツコツと練習を続けていくと、少しずつ先輩方からも点数が取れるようになり、自分でも上手になってきたのが分かり、どんどん楽しくなりました。

初めて大会に出たのは、一年生の秋でした。だいぶうまくなつたと思っていました。大会に出ると何もできないまますぐに負けてしまい、力不足を思い知らされました。とても悔しかったです。しかし、それよりもまだまだうまくなりたいという気持ちの方が強くなりました。

それから努力を積み重ねた結果、二年生の秋の大会では、一勝することができました。とても嬉しかったです。そして、次は、もっと勝てるようになるために、努力をしようと思いました。

三年生が抜けた後、私は部長になりました。自分でも正直大丈夫かなと思っていました。後輩たちを引っ張っていかうと努力していききました。その結果、後輩たちも自分の努力に反応してくれて、一生懸命部活動に取り組んでくれるようになり嬉しく思いました。そして、最後の大会となる秋の大会では、自分の持っているスキルを生かして、思い切り相手を倒そうと頑張りました。

結果は、初戦を勝ち、二回戦で負けてしまいました。とても手強

い相手だったので、今回は負けましたが、これからまた卓球を続けて、次は勝てるように頑張ろうと思いました。

高校から始めた卓球でしたが、普段から基礎的な練習に励み、サーブなどの技術を身に付けて、勝てるようになっていったことは、努力は報われるという自信になりました。これからもスポーツを続けて自信を付けていきたいと思えます。

### 「二期現場実習を終えて」

北海道小樽高等支援学校 木工科 三年

石澤 麗斗

私はハーモニー小樽で現場実習を実施しました。現場実習中に主に三つの出来事がありました。

一つ目はゴミ回収の仕事に取り組みました。二期でも行っていたので、無言でスムーズに仕事ことができました。職員さんには「スピードが上がったね。」と言われ嬉しい気持ちになりました。

二つ目は、水回りの掃除に取り組みました。二期でも行った仕事だったためスピーディーにできました。水回りの掃除は好きな作業だと感じました。

三つ目は、ベッドメイキングに取り組みました。二期よりは手力が少なくベッドメイキングができるようになりました。仕事では手

早さも大切だがベッドメイキングでは丁寧さが優先されると思いましたが。職員の方より「1期より上手くなったね。」と言われゴミ回収の時とは違う嬉しさを感じました。掃除機がけも取り組みました。最後に仕事をして、褒められると嬉しいし誰かの役に立てると心が満たされるということを改めて感じました。

識したいと思います。

### 「津波伝承館の学び」

北海道伊達高等養護学校 三年

清野 和哉

### 「津波伝承館について」

北海道伊達高等養護学校 三年

一宮 子龍

私は、岩手県にある津波伝承館を見学しました。津波がどんな人々に影響を及ぼすかを見て学びました。

二〇一一年三月十一日に地震がおきました。その時に多くの人や建物、歴史が津波によって奪われました。当時は建物が多くありましたが、今では大きな建物は津波伝承館以外なく、家も少なかったです。岩手県の人は、これを機に小さい地震でも避難をしている人もいるそうです。

岩手県では「津波てんでんこ」という避難方法があります。薄情なようであっても、「てんでんばらばらに急いで早く逃げよ。」という、津波から逃れるための昔の教えであるということです。

今後はこれを参考にして、津波が来たら「津波てんでんこ」を意

三月十一日、何が起きたのか、被害はどれくらいなのかを学ぶために、「いわてTSUNAMIメモリアル」へ行きました。

中に入ると、目に入ったのは、三陸地震の歴史でした。そこには、今まで起きた地震や被害のことが書かれていました。ほかにも、ムービーを見て、津波の怖さを学びました。

その後は、自由時間に入り、見て回り、被害をあらためて知りました。そこで知ったのは、日本各地から消防が来て、日本国外からもたくさん来ていることを初めて知ることができました。また、人の命は、七十二時間をこえると、せいぞんりつが下がるということも、初めて知りました。そのことを考えて、大人になって災害があったら、次はせつきよく的に、ボランティアに参加したいです。

## 「一学期の反省と二学期に向けて」

北海道函館高等支援学校 生産技術科 一年

大島 隼人

入学して約三ヶ月。新しい環境にも慣れ、友達とも仲良くなってきた頃、気付けば一学期も終わりに差ししかかっている所だが、まだ一学期の反省をしていなかったなのでここで紹介する。

一つ目は、作業学習について。最初は時間を見ながら作業着に着替えることが難しく、作業時間に間に合わない事が多々あったが、今では時間よりも早く着替える事がしっかきできていて作業に支障をきたしていないので、一つの「成長」だと思う。時間を守る事で良い木の製品や美味しいドリンクが作れているのではないかと僕自身は感じる。

二つ目は、ボランティア活動について。本校では花かいどうや函館マラソン、地域清掃など沢山の社会貢献活動があるが、全て「自分のため」や「社会（人）のため」になるので今からしっかきと力を付けて自分のモノにしたい。

一学期は入学式から休む暇も無く、行事など沢山の事をこなしてきたが、今思うと「この短期間、心と頭をフル稼働して色々吸収したり行動に移したりと大変だったな」とタオルのように身を絞りながら何事にも真剣に取り組み、忙しい日々を先生方の手を借りずに本校特有のハードスケジュールをよく乗り越えられたなと思った。

このような経験は初めてでついていけるかどうか不安だったが、皆がいたおかげでくじけずに頑張れたのではないかと感じた。

次は二学期一生懸命頑張りたい事は、現場実習と学校祭、そしてハコカフエクロバー。

まず現場実習では、職場の方のお話をよく聞き、大事だと思った所はメモに記録し、自分は今日何がどう悪かったかを反省して次に活かしたい。

学校祭では、皆が笑えるようなモノマネやモノボケなどをして会場を沸かせたいと思っている。

ハコカフエクロバーでは、作業学習で行った事を思う存分発揮してお客さんに喜んでもらいたい。

全ては他人のためや自分の就職のためになるので無駄な事は一つもないので三年間手を抜かずに努力をして力をつけていきたい。

## 「一年をふり返って」

北海道北斗高等支援学校 環境・流通サポート科 一年

金澤 祐翔

私が北斗高等支援学校に入学した理由は、就職するのに必要な力を付けるためです。そのため、合格できたときはとても嬉しかったです。その後、新入生代表あいさつに選ばれました。正直、嬉しか

ったのと同時に、「なんで自分なんだろう…」「自分にできるのだからか…」など、不安もありました。しかし、本番では、思っていたよりも上手くいったので、心の中で「良かった。上手くいった。」と、かなり安堵しました。

入学したとき、私は正直、「実習とか余裕でしょ。」と、完全になめてかかっていた。結果、余裕なわけもなく、とても苦労しました。今は、どこでどんな作業をしようとも、気を引きしめて臨むように心がけています。

入学してからしばらくたった後、宿泊研修がありました。宿泊研修では、売店業務を体験した後、駒ヶ岳で登山をしました。駒ヶ岳に登るときは、「急な坂だけど、まだ大丈夫だな。」と思っていました。が、本当にきつかったのは下りるときで、急な坂に加え、下り坂で加速してしまったので、非常に転びやすく、下りづらい山でした。

自主研修では、財布を置き忘れてしまい、先生に代わりに昼食代を支払ってもらったこともありました。かなり申し訳ないなと思ったので、財布が戻ってきたとき、代わりに払ってもらった分は、しっかり返しました。このことから、「物の管理は厳重にしよう。」と決心しました。

清溪祭では、一日目はステージ発表で、入学から宿泊研修までの学校生活の名場面を劇にしました。正直、演技は大の得意なので、かなりノリノリで自分の役を演じていました。かなり楽しかったです。二日目の販売実習では、商品を袋に入れる係でしたが、ポップ

コーンの入れ方が分からなかったり、「袋はいらないです。」というお客様がいたりしました。しかし、私が想像していたよりも臨機応変に対応できました。思っていたよりもできた方ですが、それと同時に、「もう少しスムーズに動ければよかった。」や、「表情が硬かったかも。」など、直すべき所はたくさんあったので、ふだんの生活や実習の中で一つずつ直していきたいです。

夏休み明けに、W T W（ワーク・トレーニング・ウィーク）がありました。W T Wでは、トマトの共同選別所へ行き、実際にトマトを選別しました。トマトは、傷があるものはじき、更に色で分けるので、慎重に見なければならず、油断しているとトマトがたまってきて、対処しきれなくなるので、判断力がかなり重要な作業でした。また、トマトの入った箱を積み上げる作業もありました。決められたサイズの箱を積み上げるという作業で、選別のときよりは作業しやすかったですが、途中、担当していないサイズの箱が流れてきて、一瞬戸惑いました。しかし、想定していたよりはすぐに慣れることができ、安定して作業することができました。

そこから二ヶ月たち、職場実習に入りました。実習先は、株式会社ドリムファクトリーでした。作業内容は、主にお弁当やおそうざいの盛り付けや、「番重」という名前のトレイをふく作業がありました。盛り付けでは、ベルトコンベアで流れてくる容器に、おかずを盛り付けるという作業でした。最初は、「余裕だな」と思いましたが、慎重に作業しすぎたのか、盛り付けが追いつかなくなり、べ

ルトコンベアを何度か止めることになってしまい、非常に申し訳ないなと思いました。また、職場の方に大平原というお菓子をもたらした際に、無言で持ち帰ってしまい、感謝を伝えるのが遅くなり、こちらも申し訳ないなと思いました。

これまでの学校生活で身についたことは、単純作業を繰り返す力です。元々得意な方ではありませんでしたが、北斗高等支援学校に入り、W T Wや職場実習を通して、更に得意になりました。

苦手だと思ったことは、「報・連・相」と、「速さと丁寧さの両立」です。「報・連・相」は、周りからよく指摘されるので、直したいと思いました。「速さと丁寧さの両立」は、職場実習のときに、職員さんの作業スピードについていけなかったときがあったので、これら直さなければなと思いました。

これからの学校生活では、この二つの苦手な所を克服したいのと、将来のためにできることを増やしたいです。そのために、教わったことを実際にやってみたり、イメージトレーニングをしてから実際に作業したりして、身につけていきたいです。

### 「三年生、最後の楽しい学校祭」

北海道旭川高等支援学校 環境・流通サポート科 三年

中野 友七

十一月十五日、十六日に最後の学校祭がありました。その中で、私が学校祭で思い出に残っていることは、二つあります。

一つ目は、一日目の玉入れと有志発表です。玉入れでは、一位になるために三年生みんなで協力して行いましたが、惜しくも先生チームに負けてしまつて、二位になって悔しかったです。有志発表では、応募していない先生がサプライズでギターを弾きながら歌を歌っていました。先生の歌がとても上手で、感動して心に響きました。

二つ目は、二日目の学科ブースを回ったことです。環境・流通サポート科の学科ブースでは、初めてフードコートを行いました。私は、午前の部で提供口を担当しました。うまくできるか不安で、緊張しましたが、みんなで協力して、声をかけ合いながらできたので良かったです。午後は仕事がないので、学科ブースを回りました。福祉サービス科のカフェで、イチゴフォンケーキを食べました。とても美味しかったです。次に自分の学科のフードコートに行き、パウダースノーアイスとわかめの味噌汁を食べました。パウダースノーアイスは、苺味でした。すごく美味しかったです。フードコートでは、パウダースノーアイスが一番人気でした。人気すぎて驚きました。

また、久しぶりに卒業した先輩に会えてうれしかったです。卒業した先輩とたくさん話すことができ、良かったです。来年は、自分が卒業しているので、お客さんとして来たいです。

私が学校祭を通して学んだことは、体調管理と自分から話しかけ

ることです。なぜなら私が就職したときに会社の方々に迷惑をかけるしまうからです。自己管理できるようにしっかり食事をして運動を頑張ります。

また、自分から話しかけることで、コミュニケーションを取ることでできると思っているので来年、企業に採用されるように学校で意識して頑張ります。

## 「楽しかった見学旅行」

北海道中標津支援学校 高等部三年

渡辺 雷

第一章 「不安な気持ちとともに東京へ … はじめての飛行機」

僕は見学旅行で初めて飛行機に乗りました。飛行機に乗る前は少し緊張しました。荷物検査が終わり、飛行機に乗るとき、驚くくらいたくさんの方がいました。席に座ったら安全についてビデオが流れました。僕は「これなら何が起きても安心だな。」と思いました。

飛行機が動き出す前、飛行機が「エネルギーを溜めている」ような音がしました。少しして溜め終えたのか、飛行機がゆっくりとバツクを始めました。ゴロゴロと音がして飛行機が滑走路に向かって動き出し、太い滑走路に出たところで、いったん止まったかと思ったら大きな音と共に加速して、フワッと空中に飛び上がりました。

外を見ると雲の中なのか窓の外は真っ白で進んでいるのか進んでいないのかも分からず、果たして東京に着くか不安になりました。

僕のそんな不安をよそに、飛行機は揺れることもなく順調に飛んで東京羽田空港に着陸しました。荷物を取ってバスに乗り、景色を見て楽しんでいられるうちにあつという間にホテルに着きました。夕食とお風呂のあと、部屋の友達と話し、ミーティングをしたあと、ベッドに横になって東京の夜の景色を眺めているうちに寝てしまいました。

第二章 「自主研修 … 秋葉原での偶然の出会い」

二日目、東京スカイツリーにのぼりました。上の展望台からは街の家やビルが下に小さく見え、高いビルの向こうには富士山が見える景色はとても綺麗でした。

そのあと自主研修で秋葉原に行きました。秋葉原ではアニメグッズを買ったりしましたが、途中、僕の知り合いのユーチューバーさんに会いました。彼は用事の帰りだったらしいのですが、偶然に会うことができたのでスゴくうれしかったです。

第三章 「デイズニールランド… 飛騨野先生といっしょ」

三日目はデイズニールランドに行きました。デイズニールランドではHR毎に廻りましたが、まずスターツアーズに乗りました。他にもたくさんの方がいて、乗るまでの待ち時間、周りの景色を眺めていましたが、いつも見ることもない建物やアトラクションを観て楽しみました。他にもお化け屋敷のようなアトラクションにも乗りまし

たが、飛驒野先生と「すげえ！スゲエ！」と言いながら乗りました。

懐中電灯のような物で「エム」を探すアトラクションにも飛驒野先生と乗りました。乗り物を回しすぎて少しフラツとしました。ホテルに早めに帰るグループだったため、夜のパレードは観られなかったけれど、ベイマックス・バーガーやピザを食べることができ、スタートアップにも二回乗れて良かったです。

夜、ホテルに帰ると僕もみんなも疲れ切っていました。同じ部屋の友達と少し話して、外の景色を眺めているうちにあつという間に寝落ちしていました。

第四章 「最終日」：夢の中の東京、友達の肩を借りて」

帰りの飛行機では、昨日まで楽しんでいた東京やデイズニールランドの綺麗な景色を窓の下に観ながら中標津に向かいました。僕はまた秋葉原で面白い物したり、デイズニールランドで飛驒野先生と叫んだり、ホテルの部屋から夜景を眺めていました。気がつく僕は、旅行の疲れから隣の席の友達の肩を借りて心地よく眠ってしまったのでした。

この見学旅行を期に僕は、卒業したらお金を稼いでたくさん旅行に行き、今回の旅以上の思い出をたくさん作ろうと決意を固めました。

## 「最高の豊明祭」

市立札幌豊明高等支援学校 一年

室 裕貴

私が豊明祭でがんばったことは、接客を大きな声でしたことです。ヨーヨーのグループで、ヨーヨーの釣り竿をわたしたり、ヨーヨーの水をふく係をしました。その時に大きな声で接客をすることができました。

私が豊明祭で楽しかったことは、二つあります。

一つ目は、友達と豊明祭の会場と一緒にまわれたことです。二つ目は、友達と射的で競い合ったことです。

友達とリユースショップ「ドンキホームメイ」や縁日をまわったりして、その時に縁日で射的の競い合いをし、見事に友達が勝利して自分は負けました。ですが、とても楽しい思い出になって良かったなと思いました。

最後に私は豊明祭を通して、人に対する口調や態度を良くすることを学びました。今後は、人に対する態度を良くすることを学校生活に生かしていきたいです。

私は豊明祭を通して、またやりたいなと感じました。

来年の豊明祭は演劇をやってみたいです。

## 「高校最後の白桜祭」

北海道札幌養護学校白桜高等学園 三年

澤井 晴大

十一月九日土曜日に高校生活最後の白桜祭がありました。今年の白桜祭では、ステージ発表と製品販売をしました。ステージ発表では、「おはようのメール」を歌い、「チューチュートレイン」のダンスをしました。

販売会のお店の名前は、「白桜健康ファーム」でした。販売会の準備で頑張ったことは、作物を育てるときの水やりです。ジョウロに水を入れて長い距離を運んだことや、野菜によって水のかけ方が違ったのが大変でした。販売では、会計の仕事をしました。会計の仕事では、間違うことなく、事前に行った練習の成果を出し切って計算をすることができました。

販売会では、野菜と一緒に枝豆腐を販売しました。作業学習の時間に枝豆腐のパックに描くシンボルマークを決める時間がありました。みんなで絵を描いた中で、自分の描いた絵が採用されました。販売会当日には、自分が描いたシンボルマークのった枝豆腐を買ってもらうことができて、とても嬉しかったです。このことが一番の思い出になり、高校最後の白桜祭が三年間で最高の白桜祭になりました。

## 「高校最後の白桜祭」

北海道札幌養護学校白桜高等学園 三年

山崎 隼斗

白桜祭の頑張ったことは、実行委員会で実行委員長として開会式の挨拶をしたことと、実行委員会のステージ発表です。挨拶では、ちよつと緊張して一つミスをしたけど、そのあとはゆっくり話すことができましたと思います。ステージ発表では、「USA」のダンスをしました。U.S.Aのポーズがみんなで揃えられたのが嬉しかったです。三年生のステージでは、「choo choo train」のダンスと「おはようのメール」の歌唱をしました。ダンスの途中に靴紐が解けてしまい、何度か危ないところがありました。最後まで踊り切ることができました。歌唱は、リズムや音程に気をつけて歌いました。

白桜祭の準備で一番大変だったことは、販売会の製品の袋詰めです。エコバックやランチョンマットなどの製品を綺麗に袋に入れることが大変でした。袋の中で製品が折れたり曲がったりしないように気をつけて袋詰めしたことで、なんとか作業をやりきることができました。

今年の白桜祭は、実行委員長になって、色々ドキドキしたこともあったけど、楽しいこともあった白桜祭でした。

## 「三年生の思い出とクラスの思い出」

北海道札幌養護学校白桜高等学校 三年

渡邊 くるみ

三年生に進級もクラスは変わらず、二年生の時と同じクラスでした。進級するときはクラスの友達が変わってしまうのかと、すこし不安がありました。クラスみんなが変わらなかったのも、クラスのみんなど仲良くしたり、楽しく話したりしています。みんなと話すことは楽しいです。進級してから、初めての行事は社会体験学習でした。

社会体験学習では、新千歳空港に行きました。バスで新千歳空港に行きました。見学が終わったらお昼を食べました。食べたのは、ラーメンでした。美味しかったです。社会体験学習では、見学旅行での飛行機をみにいきました。

その後の行事は、見学旅行でした。見学旅行では、東京スカイツリーに行きました。沢山回って、思い出に残るスタンプを押しました。二日目はドイツニーランドに行きました。ドイツニーランドでは、東京なので暑かったです。ミッキーにも会えました。最初は、怖くてなかなか入れなくて行けませんでしたがなんとか中まで入れました。クラスのみんなと写真を撮りました。うれしかったです。見学旅行が終わったらおばさんが迎えに来てくれました。私は、疲れしていました。

二学期は、十一月九日土曜日に白桜祭がありました。ラスト白桜

祭でした。おばさんおじさんが白桜祭に来てくれました。沢山私の製品を買ってくれました。手芸班のみんなで作った製品が売れました。沢山のお客さんが来てくれました。「ありがとうございます」を伝えました。製品がなくなったときはとてもうれしかったです。

ほかに、いろいろな授業に参加しました。音楽では、グループ学習でピアノを練習しました。最初は、ピアノを上手に弾けませんでしたが今では、弾けるようになりました。まだドキドキですがさ

いごまで頑張りたいです。これから卒業式があるので、たくさん思い出ができるようにがんばりたいです。

## 「余命十年」

北海道岩見沢高等学校

生活科学科 二年

高野 聖

私はこの本を一度読んだことがあります。ですが、当時は特に何も考えずにただ読んでいただけでした。今年の読書感想文で何を讀もうか迷っていた時、「もう一度この本を読みたい」と思い、この本を選びました。

この本は、主人公の茉莉がまだ治療法のない難病にかかり、余命

が十年であることを知ります。一度退院することができた茉莉は、新しく見つけた趣味に没頭し、恋はしないと決めていましたが、地元のお会でもうするはずではなかった恋を見つけてしまうお話です。

私が一番印象に残った所は、茉莉が姉の桔梗と色んなことを比べてしまっていた所です。なぜかという、私には弟がいます。弟は健常者です。私は近くに健常者の弟と比べてしまうことが多いです。弟じゃなくても健常者を見ると、とても羨ましく思います。私に余命があるわけではないけれど、比べてしまったり、羨ましくなるのは障がい者でも同じだと思い、とても印象に残っています。

もし私が茉莉だったら、余命のことは絶対誰にも言えないと思います。本当に余命宣告をされたらもちろん色々考えてしまうと思います。ですが、一度きりの人生です。その一度きりの人生を全力で楽しめたらいいなと思いました。

前は何も考えずに読んでいたこの本でしたが、今になって読み、仲間の大切さ、命の大切さを改めて知ることができて本当に良かったです。この先も生きていく中で、大変なことや嫌なことはもちろんたくさんあると思います。ですが、その分楽しいことやいいこともあります。辛いことがあるからこそ、より幸せを実感できるのだと思います。これからも色んなことにチャレンジしたり、大切な仲間との時間を大切にして過ごしていきたいです。そして、この一度きりの人生を全力で、今まで以上に楽しみたいと思います。

しらせたいな、見せたいな「めだかちゃん」

北海道手稲養護学校 小学部 一年

森下 弥真人

めだかちゃんのからだは、きいろと、あかと、くろと、みかんいろと、うすだいいいろです。

ひれは、ばさばさしています。おおきいめです。

えさをやると、ゆかに 二かいも おとして、さいごはくちでたべました。

「がくしゅうはっぴょうかいのおもいで」

北海道拓北養護学校 小学部 六年

土江田 陽花

わたしは、がくしゅうはっぴょうかいに、おじいちゃん、おばあちゃんが、みにきてくれてうれしかったです。

わたしは、はっぴょうで、おんどをさんじゅうにどにしました。わたしが、つくったぼっきーを、みんなにみせました。

6ねんせいのおみんなも、がくしゅうはっぴょうかいをがんばりました。

わたしは、さいごのがくしゅうはっぴょうかいで、かなしいけれ

ど、がんばりました。

